

減築リフォームを取り入れてみよう

リフォームというと増築などによって床面積を増やすことを考えがちですが、「減築」によって空間が拡大することもあります。しかも、建物の自重が減るので、バランスのよい減築であれば耐震化にもつながります。「減築リフォーム」の選択肢も視野に入れてみてはいかがでしょうか。

インタビューでは、減築リフォームをして第25回住まいのリフォームコンクールで住宅リフォーム推進協議会会長賞を受賞された高田さんにお話を伺いました。



大胆に床を取り除いて、耐震強化と明るい空間に

K16 Design Factory 高田 憲一郎 氏 (設計/右)

石倉 和浩 氏 (構造・施主/中)

中田建設株式会社 中田 裕二郎 氏 (施工/左)

【広島】

お客様と一緒に
物件を見に行く
のも手

床を除くと
吹き抜け空間に

減築すると構造
上優位になる場
合も！



● リフォームのきっかけは？

石倉氏：私自身、構造関係の事務所で働いており、せっかく住宅を取得するのであればビルのコンバージョン&耐震改修にチャレンジしたいと思っていたのがリフォームのきっかけです。

高田氏：購入する時から一緒に見学に行き、ビルの図面を見せてもらったり天井や壁の一部を剥がして見せてもらったりしました。3~4件は見たでしょうか。この物件に決めたのは、2スパン6本の柱で済みそうな平面なのに、3スパン8本もの柱が使われており、構造的にしっかりしていると判断し石倉さんの意見も踏まえ決定しました。

その上で、大胆に床を取り除く計画をしたので、建物自体も軽くなり、より優位になりました。ですから1階に耐力壁を部分的に追加するだけでほぼ済みました。スキップフロアを採用し4階建てから3階建てになり、階段を含む一室空間になっています。おかげで住宅全体が明るい空間になりました。

● 構造についての判断はいかがでしたか？

石倉氏：通常、床を撤去することは構造のバランスが悪くなるため行いたくないところですが、自分も吹き抜けが好きで吹き抜けのデザインのうまい高田さんに設計をお願いしたので、この高田さんのアイデアを実現したいと考え、床がなくなることを考慮した上で構造の検討をしました。構造の検討を万全に行うことによって、空間の快適性を損なわず計画することに成功したと思います。

● 施工で苦労された部分は？

中田氏：解体部分の有無があったため重機が使えず、通常よりも3倍の解体期間がかかりました。上から順に手バラシし、しかも、都心のため廃材の搬出も窓から降ろすことができません。苦労しました。



中2階の居間から東側をみる。中2階は、もとの3階にあたる部分である。その床の2/3を撤去し、吹き抜けとしている。

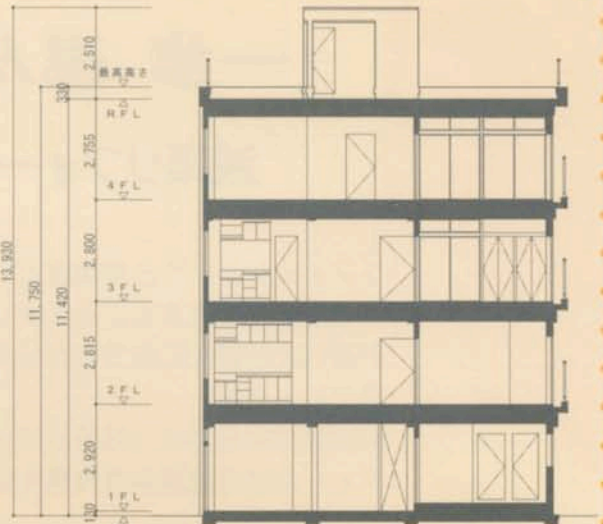


1階部分にブレースを入れ耐震補強を行った。減築で建物を軽くしたこともあり、ほぼ1階のみの補強で済んだ。



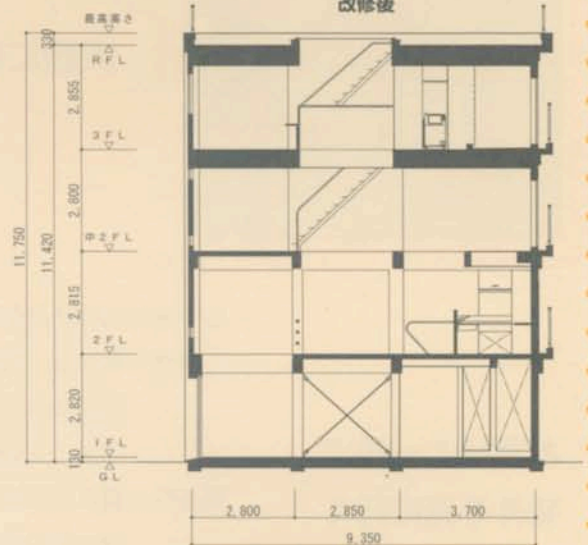
前面の壁はすべて解体しやり替えたが、両サイドと裏側は隣地距離が20cm程しかなかったため既存のまま残している。

(第25回住まいのリフォームコンクール住宅リフォーム推進協議会会長賞受賞)



改修前

改修後



構造耐力上問題がある場合に、時には、減築することで建物が軽くなり、構造的に有利に働くこともあります。一室の床面積が小さくて居心地が悪いなどという場合に、増築とは真逆の手法である減築で空間を広げることも一つの解決法ではないでしょうか。

減築で注意することは？

□剛床がなくなると・・・

剛床がなくなると、力の伝達が変わり、建物全体が変形してしまいます。



剛床がある

対策1
荷重を減らす



対策2
梁を残す
水平ブレースを設置する

□建物全体で検討する

むやみに剛床を撤去するのではなく、建物全体について総合的に構造を検討しましょう。

一步進んだリフォーム No.7
平成21年10月1日発行

リフォーム推進ネット
リフォームネット

財団法人 住宅リフォーム・紛争処理
支援センター
〒102-0094
東京都千代田区紀尾井町6番26-3
上智紀尾井坂ビル5階
電話 03-3261-4567 (大代表)

リフォームのことなら
リフォームネット
今すぐアクセス！！

<http://www.refonet.jp/>

構造の専門家とよく相談して減築の計画を立てましょう。